



東 龍 便 り

〒224-0023 横浜市都筑区東山田2-9-1 (電話) 045-594-5107

E-mail : ky-yi-higashiyamata@city.yokohama.jp

心の余裕をもって

安藤 位彦

先月は各学年校外学習が行われました。どの学年も天候に恵まれ無事行事を終えることができ本当に良かったです。仲間と協力してやり遂げたこと、学校を離れて体験的な学習を通して多くのことを学んだこと、友人との絆を深め楽しい思い出ができたことなど、今後の学校生活に生かすことができる経験をしたことと思います。これからも**友人の輪、学級の輪、学年の輪**を大切に過ごしましょう。

6月に入り、関東も梅雨入りが発表されましたが、天候の良い日が続き梅雨入りがウソのようです。今月は1年生にとって初めての定期テストがあり、中学校の学習は、日頃から少しずつ計画的にしていかないと大変だと感じたのではないのでしょうか。また2, 3年生はどうでしたか。テストが返却され学習しただけの結果が出たのでしょうか。次は9月に期末テストがあります。少しずつ確実に頑張っていきましょう。



あじさいロード

先日ある雑誌で「苦しいとき、つらいとき『笑い』が心を強くする」という文章を見ました。このとき最近、自分が心底笑ったことがあるか「ふと」考えました。東山田中学校に来て1年以上過ぎ、楽しかったこと、嬉しかったこと、大変だったことたくさんありました。やれるだけのことを精いっぱいやり、後は結果を待つしかないとき、そのとき自分が心の底から笑えたなら、もっと心の余裕ができ「今以上のことができたのでは」と考えることがあります。皆さんも「笑うと緊張がほぐれ、今以上の力が発揮できる」「思い出し笑いで、幸せな気分になれる」そのような経験をしたことがあるんじゃないのでしょうか。そのような心の余裕を日頃から持つと、また新しい自分が生まれてくるのでしょうか。そして、その楽しい気分は周りにも伝染し、学校生活も明るくなります。絶えず笑みをもって過ごしたいですね。あと「笑っていると免疫力が高まる」そうです。冬のインフルエンザ対策にもいいかもしれませんね。

保護者の皆さま、今生徒は17日に向けて体育祭一色。応援練習にも熱が入っています。ぜひ応援にいらしてください。子供たちの真剣な演技が見られます。楽しみにしてください。



東山田中ホームページを前回お知らせいたしましたように、リニューアルいたしました。4月からの学校行事の様子などを掲載しておりますのでご覧ください。左のQRコードを読み取るか、次のアドレスを入力してください。

<http://www.edu.city.yokohama.lg.jp/school/jhs/higashiyamata/>

3年修学旅行

5月18日(木)～20日(土) 2泊3日で、京都・奈良・大阪方面に修学旅行に行きました。

この修学旅行は1年生の自然教室での宿泊体験、2年生の横浜遠足での班別行動の体験を生かし行いました。今回は「味わう古都、深める古都、挑む古都」をスローガンに古都の文化に触れ、社会に出ていくための学びを深め、そして楽しみながら全員にとって良い思い出になる修学旅行にすることができました。

【1日目】新横浜駅に集合した時の生徒は、とても楽しそうでわくわくしている様子でした。新幹線の中でも、笑顔の生徒が多く、声も弾んでいました。

奈良公園では、南大門付近でクラス写真を撮った後、約2時間の班別行動があり、晴天の中での活動でしたので少し疲れた表情を見せていました。その後宇治平等院に移動し、奈良でのお土産を買い、鳳凰堂を見学して1日目が終わりました。

【2日目】この日は、大津プリンスホテルからタクシーを使い京都1日班別自主行動に出かけました。事前に自分たちでコース作りを行い、昼食場所や、体験場所の予約をし京都市内を回るもので今回の修学旅行ではメインとなるものです。

【3日目】この日は、朝食を済ませるとバスで大阪なんばグランド花月に向かい漫才や新喜劇をみんなで楽しみました。その後1時間半程なんば・道頓堀付近を班別行動し、横浜への帰途につきました。生徒たちは3日間とても楽しく良い体験ができたようです。

《生徒の3日間の思い出より 一部抜粋》

- ・これまであまり話したことの無い人と仲良くなれたりできて良かったと思う。また、普段なら行けないような場所にも沢山行けたし、珍しい体験もできて良かった。3日間を通してしっかり時間通りに行動ができたし皆の意見を聞いて色々なお店に入ったりできて良かった。また、スローガン通り古都の文化を知れたり楽しめたりできたと思う。(5組 本堀真弓)
- ・正直お寺や神社にはあまり興味がないけど実際行ってみると素直にすごいなと思えた。歴史の教科書の写真だけでは伝わってこないものも、実際に見ることで味わえるんだなと思う。「一生の思い出になるように」というのがあったけど、私はこの修学旅行は一生の思い出になったと思う。(4組 伊東志穂)
- ・2日目は日本の世界遺産を多く見に行って昔の人の暮らし方を知ることが出来た。特に心に残っている場所は二条城で床を歩いているとキュッキュッと音が鳴ったことです。実際に二条城に行くまでは本当になるとは思っていなかったけど思った以上に大きな音だっ



新横浜にて



奈良公園にて



奈良公園にて



宇治平等院にて



宇治買い物



嵐山にて

たのでびっくりした。(7組 澤田大斗)

・どれもすべてが修学旅行のパーツで忘れられない時間になりました。大人になったとき話せる日が来るといいなと思います。いろいろ事件もたくさん3日間でしたが私は十分すぎるくらい満足できました!!先生はどうでしたか?後悔することも山ほどありましたが、それと同じ以上に楽しかったことでいっぱいになりました!(4組 井上娑也佳)



なんばグランド花月にて

収穫

6月6日グリーンサポーターの方たちと個別支援学級の生徒で、プール奥にある畑の玉ねぎとジャガイモの収穫をしました。グリーンサポーターの方たちはコミュニティーハウスで販売をするようですが、個別支援学級では次の調理実習でお味噌汁の具として利用するようです。楽しみですね!



またアリーナ裏に実っている梅を使ってジュースを作り、サツマイモの栽培など個別支援学級では、学校敷地内でできる作物で食育を行っています。どれもおいしくできるといいですね。



教育実習が始まりました

6月3日より23日まで、2名の教育実習生がみなさんと一緒に学習します。以前に1年生自然教室の補助員として活動しましたが、今回は3週間という短い実習期間ですが、体育祭もあり、みなさんと触れ合い時間もたくさんあるので、よろしくお願ひします。

- ・宗形 光 先生 (社会) 1年1組担当 演劇部
- ・井上 亮平 先生 (国語) 2年7組担当 男子バレーボール部



★4月部活動の記録★

- ・男子軟式テニス 6月11日神奈川県中学校総合体育大会横浜ブロック予選会
青葉・都筑地区大会第5位 西本・安藤組 (市大会進出)
第9位 長友・望月組 (市大会進出)
(次回市大会は7月16日)
- ・男子バレーボール 6月3日 神奈川県中学校バレーボール選手権大会 ベスト16

学校概要

創立 13 周年	学校長 安藤 位彦	副校長 増田 友昭	学期 2 学期制	児童・生徒数 812 人
学級数 一般級: 22 個別支援級: 4		主な関係校: 山田小学校・東山田小学校・北山田小学校		

学校教育目標

学びあう私たちが目指す姿
 「正解から回答へ」「思考から試行へ」「成功から成長へ」
 ○自分らしく生きるために様々な面から自己を磨く生徒【知 徳 体】
 ○自他の良さや違いを認め合い、それを集団や社会の中で生かしていく生徒【徳 公 開】
 ○進取の精神と広い視野を持ち、自律的に生活する生徒【体 公 開】

学校の特徴
 ニュータウンの新興住宅地を中心とした地域で、教育熱心な保護者が多く、生徒の学習意欲も比較的高い。PTAの活動も積極的で、学校との関係がとて良い。また地域には東山田連合町内会、北山田町内会、南山田町内会の三つの町内会があり、どちらも大変学校に協力的である。本校はコミュニティスクール第一号として平成17年に開校して以来、地域と共にある学校を目指して様々な取り組みを行っている。学校運営協議会と学校支援地域本部とが両輪となって本校を支えており、様々な支援を受けることで生徒の学習の幅が広がり、多くの学習成果を上げることができている。ここ数年はキャリア教育と防災教育を二つの柱として、地域の力を借りながら教育活動を展開している。学区には3小学校があり、すべてが本校学区域であるため、小中一貫教育も進めやすい。

学校経営中期取組目標

○学校・家庭・地域が一つのチーム東山田として機能できるよう、連携を大切にした魅力ある学校づくりを行っていきます。
 ・教職員が相互に啓発・連携し校内研修の充実を図ると共に、組織的にPDCAサイクルを機能させ、授業力向上を目指します。
 ・一人ひとりを大切にするきめ細やかな指導を継続し、言語活動の充実を目指した授業を展開し、学力向上につなげます。
 ・コミュニティスクールとしてのさらなる機能の充実を図り、地域との連携を生かしたキャリア教育や防災教育の実践を通して、コミュニケーション能力の育成を図り、生きる力を育みます。
 ・小中一貫教育を組織的・機能的に推進し、9年間の学びの連続を通して、自分を磨き、互いを認め合い、人とつながることのできる力を育みます。

小中一貫教育の取組

東山田中学校	ブロック	山田小学校・東山田小学校・北山田小学校・東山田中学校
9年間で育てる子ども像	小中一貫カリキュラムを基に、自分を磨き、互いを認め合い、人とつながる児童・生徒を育みます。	
自校の具体的取組	・四部会を組織し、1.合同授業研究の充実、2.児童・生徒指導部の連携、3.活発な生徒交流、4.小中合同避難訓練を柱とした防災教育を推進する。 ・推進会議を通して、組織的に四部会の活動をコーディネートする。 ・小中一貫教育の評価機能として、年数回学校運営協議会を拡大し、小中合同で開催する。	

重点取組分野	取組目標	具体的取組
確かな学力	基礎的・基本的な知識・技能を定着させ、言語活動を取り入れた教育課程を編成し、思考力・判断力・表現力を育成する。	①少人数授業や学習相談や夏休み学習サポート教室など個に応じた指導を充実させます。②保護者・地域・生徒の授業評価を受け、授業改善に取り組みます。③教室配置のパソコンや大型ディスプレイなどのICT機器を用いて、教科領域を合わせたあらゆる学習活動で積極的にICT教育の充実を図るとともに、情報モラル教育の推進を図ります。
豊かな心	学校の教育活動全体を通して、自他の良さや違いを認め、お互いを尊重する心・意欲・態度を育てる。	①人権教育や平和教育・福祉教育などをテーマとした講演会を積極的に行うとともに、日常の道徳教育の充実によって心の教育を推進します。②生徒会や福祉委員会の活動の他、地域行事への生徒の積極的な参加や、清掃活動などのボランティア活動への参加を推進します。
健やかな体	運動や健康・安全についての理解と実践を通じて、運動に親しむ資質と能力と、健康で明るく豊かな生活を営む態度を育てる。	①けがや傷病のデータや予防法を生徒・職員・保護者に発信し、傷病や校内感染を未然予防するよう努めます。②毎月の保健だよりや委員会活動を通じて、食生活の意識改善を図り、保護者・地域に食育に関する情報を発信していきます。③長縄運動を通じて、目標を持って運動に取り組み、楽しみながら体力向上につなげます。
キャリア教育	コミュニケーション能力の育成をねらいとした三年間の系統的なキャリア教育を、学校支援地域本部と連携して実践し、工夫改善をはかりさらに充実させる。	①コミュニケーション能力の育成をねらいとし、3年間の系統的な流れの中でキャリア教育を実践すると共に、その取り組みの効率化をはかります。②教科指導と共に、学校関係者以外の多くの人の協働やいろいろなプレゼンテーションの経験を通して、課題設定・課題解決能力を養い、進路決定に生かしていきます。
児童生徒指導	相談活動を充実させ、生徒一人ひとりが持つ内面的な課題やいじめについて把握すると共に、生徒との関わりを深めて生徒理解・信頼関係づくりに努める。	①日常の声かけを活性化し、相談活動を充実させるとともに、全教職員による校内外の見回りを充実させ、生徒の動向を把握し、情報を共有することで、生徒一人一人が持つ内面的な課題やいじめについての早期発見と迅速な指導に役立ちます。②関係機関との連携を強化し、講演会などを実施することで、問題行動を未然に防ぎます。
特別支援教育	個に応じた指導ができるよう情報の共有化に取り組み。また関係機関との連携を強化し、迅速・丁寧で継続的かつ効率的な支援のシステムを構築する。	①不登校生徒に対する支援計画を明確にし、集団生活に向けたステップの一つとして特別支援教室(呼称リソースルーム)を位置づけて登校支援を行います。②特別支援教育校内委員会でのケース会議より活性化させ、話し合いの内容を職員会議等で報告し、個別の教育支援計画・指導計画と合わせて全教職員が共有し、日常の指導に生かします。
安全管理	様々な危機に対応できるような実践的な訓練を通して自助の精神を高め、様々な視点を持った防災教育を行うことで共助の精神を養う。	①職員間の情報交換を密にし、緊急時の連絡体制を明確にし、対応を迅速にできるような安全研修会を実施します。②より実態に即した三年間の計画的な防災教育を実践するとともに、地域防災訓練への職員及び生徒の参加を勧め、共助の精神を養い、いざという時地域で役立つ生徒を育てます。
人材育成・組織運営	教職員同士のコミュニケーションを密にし互いに支え合える職場を作ると共に、キャリアステージに応じた目標をもち授業力を高められる職員集団をつくる。	①主幹教諭を中心とした学年会組織を中心に、経験の浅い教職員の育成や支援を学校をあげて進めるとともに、互いに情報交換したり積極的に研修できるような雰囲気をつくります。②主幹教諭は朝の学年連絡会や学校運営協議会での様々な意見交換を通じ、学校運営を支える人材としての指導力を高め、組織の活性化をはかります。
いじめへの対応	生徒一人ひとりが受け入れられていると実感できる受容的な環境をつくる。また、すべての生徒の「教育を受ける権利」を保護するための支援を確実に実施する。	①「子どもの社会的スキル横浜プログラム」を授業や学校行事の場面で活用する。②生徒一人ひとりの状況についての記録を作成し、校長をリーダーに、担任や各学年主任、生徒指導専任教諭からなるチームによる支援を進める。③「いじめ」根絶メソッドを使い職員研修を進め、教職員の感性を高める。